

楽習白

「生涯学習」には、とても固い、とか難しい、というイメージがあるようです。

そもそも、「生涯学習」とは、人々が生涯を通じて、いつでも・どこでも自らの意思と意欲で続けるもの。でも、せっかく学習するので、「楽しく習いましょう」という意味を込めて、ここでは「楽習」という言葉を当てはめました。

このコーナーでは、「楽習」に関する情報や、実際に実践している方々、指導者の皆さんをご紹介します。

われら“学・遊”人

がくしゅふ ●文化と習俗を学ぶ会

■平成10年度ひたちなか市民大学で「文化人類学入門」が開設されました。その修了生の中から「せっかくの機会だから、もっと継続学習してみてもどうか？」との声があり、講師である茨城大学助教授の長谷川幸介先生と受講生20名によって平成11年4月1日に発足したのがこの「文化と習俗を学ぶ会」です。毎回、身近にあるものをテーマに市毛公民館等で活動しています。1つのテーマの歴史と風俗を突き詰めていくと、それまで1点しか見えてなかったことが大きく広がり、見方が変わってくるだけでなく、それが好奇心をかき立てるのではないのでしょうか？



「文化と習俗を学ぶ会」のみなさん。

ちなみに今までに発表したテーマについては、以下のとおりです。

ダンス セブ
「箆筒」「枕」「狛犬」「箸」「入浴」「お節」
「ひたちなか市の正月儀礼」「私の四国お遍路さん」
「船乗りのタブーについて」「狐」

興味深いテーマが、毎回用意されています。ぜひ、参加してみませんか？

「生涯学習」指導者紹介 学・遊 教授



「フランス刺繍」講師木内さん。

●フランス刺繍講師

木内 芳子さん

(西大島在住)

■「刺繍が何となく好きで、それまではほとんど自分流で楽しんでいました。でもそれが一転したのは、ふと立ち寄ったフランス刺繍の展示会。その美しさはまさに衝撃的で、一瞬にして魅かれました」

生徒さんの個性を作品に活かす。講師と生徒が楽しめる講座を。

と言うのは木内芳子さん。それからは本格的に習い始め、そのすばらしさを多くの方々にとってほしいという思いから、指導を続けています。

■木内さんのフランス刺繍の指導は、自分の考えを押し付けるものではありません。「生徒さんには、それぞれの好みや考えがあるものです。個性をできるだけ引き出せるように技術面でのお手伝いをし、楽しんでもらおうと心掛けています。」

■「そんな木内さんにとって「フランス刺繍とは？」とたずねると、「ライフワークとして無くてはならないものですね。まさに生活の一部。今後も、高齢化が進む現代社会において、フランス刺繍を通じて一人でも多くの方々との仲間づくりができるよう広めて行きたい」と笑顔で答えてくださいました。

ひだまり

【インテリア工房】 佐野公民館

「インテリア」と聞くと、「家具」や「照明」を想像してしまうあなたへ。

■皆さんは「インテリア」と聞くと「家具」や「照明」を中心に考えてしまいがちで、しかもそれを造るには「専門的技術がないと難しい」と思ったことが一度はあるのではないのでしょうか？

■しかし、「インテリア」を「室内装飾」と解釈すると、例えばちよっとした小物や花、テーブルウェアなどもそれに相当するのです。

■そんなインテリアづくりをしているのが、佐野公民館で開催されている「インテリア工房」。そこでは、指導者が押し付けて指導するのではなく、受講生の皆さんが自分の手で製作することで、少しでも自分の中にある部屋のイメージに近づけられるようにインテリアづくりが行われています。そして、作品製作だけでなく、同じ目的を持って集まった受講生一人ひとりが仲間意識を持ち、かつモノを作り上げた時の感動を求めて活動しています。



そろそろクリスマス！
 手づくりのリースで、
 楽しさを演出してみては？

生涯学習
 関連施設情報